

2022 年 7 月 29 日

一般社団法人全国銀行協会

FSB 「Developing the Implementation Approach for the Cross-Border Payments Targets: Interim report」に対する意見

全国銀行協会として、FSB から 2022 年 7 月 6 日に公表された市中協議文書「Developing the Implementation Approach for the Cross-Border Payments Targets: Interim report」に対して意見を述べる機会を与えられたことに感謝の意を表したい。

本件が検討されるに当たり、我々のコメントが FSB におけるさらなる作業の助けとなることを期待する。

全体へのコメント

各サポーティングデータソースを用いた KPI の計測方法が明確ではないため、KPI の妥当性、潜在的なデータソース、プロキシの利用等の評価が困難である。次のステップとして、民間部門からの更なるフィードバックを促進するため、各 KPI に係る大よその具体例について、FSB から各法域に対するアウトリーチを検討いただきたい。

質問事項への回答

1. FSB は、ロードマップの目標に向けた進捗を効率的にモニタリングするための適切な潜在的データソースを特定しているか。FSB が考慮すべき追加的、または代替的な公的・民間のデータベースはあるか。また、それはどの KPI を対象としているか。

[Wholesale target for transparency]

銀行間決済の透明性に関する目標について、金融機関間送金では SWIFTgpi を採用していない銀行もあるなか、a. 予想される時間、b. トラッキング状況、c. サービス（取引）条件を含む取引について、サンプル調査をする場合に、十分なデータが取れないのではないか。

[Wholesale target for transparency/Retail target for cost]

「Sample survey」とあるが、想定される回答者、調査項目、調査基準の開示のタイミング等、詳細を示していただきたい。また、調査基準は、毎年同じものとなるのか。

[Retail target for cost]

- ✓ 銀行およびノンバンクの決済サービス事業者へのサンプル調査は、本レポートの第1章中で示された6つの原則に沿って適切に設計されるべきである。このような調査は、新たなデータ収集を伴う可能性が高い。特定のデータ集計機関など、より有用な選択肢がある場合は、調査の範囲を決定する前に、その活用を十分に検討すべきである。
- ✓ クロスボーダー送金の実際のコストは、貸金や預金などを含む総合的な取引量に応じてより低い価格に設定されている。このようなギャップは「Remaining Gaps」欄に記載されるべきである。

[Retail target for cost/Retail target for speed]

「Payment data aggregator」として、どのような機関／企業を想定しているのか。また、それらはすでに存在するのか。

[Remittance segment]

世界銀行の調査は、この市場セグメントにおける最も包括的なデータソースの一つであるが、調査によって特定されたコストと実際のコストにはギャップが生じる場合がある。また、コストについて考慮する際には、取引ボリュームを踏まえた加重平均や、世界銀行の500ドルの送金に関する調査の利用も検討すべきである。

2. FSB は、関連する目標に密接かつ有意義に結び付くよう、適切に KPI を定義しているか。過度な負担になることなく、目標に向けた進捗について十分に代表性のある計測値を提供するためには、KPI の計算に当たってどのような追加的な考慮事項に留意すべきか。

(意見なし)

3. FSB は、いくつかの目標に向けた進捗のモニタリングのために、代理変数の使用を検討している。これらの提案された代理変数は適切か。FSB が検討すべき、十分に代表的かつモニタリングを簡素化する追加的または代替的な代理変数はあるか。

[Retail target for cost/Retail target for speed]

ユースケースを特定するための代わりとして取引額の平均値を用いることは実用的なアプローチであるように思われるが、閾値の決定には対象国のデータを十分に検討する必要がある。

以 上